

同好會報

○藤井天文臺の活動 本誌に屢々紹介した

滋賀縣大津の藤井天文臺は、今まで多くは單に一般觀覽用に用ゐられてゐたが、新春に入つて、管理者藤井善助氏（本會名譽會員）と京大の山本助教との間に了解成り、一月末より、同助教は毎週一回乃至二回出張、遊星觀測を試みる筈。但し其の準備として、同天文臺は設備を整頓改善し、二月には助教は主として同所の緯度及經度を測定、三月より九月までは火星を主とし、その他、木星土星金星等を觀測する筈。追つて其の觀測報告は通俗的に滋賀日報紙上に連載される由。

○第一回岡山講習會通信（水野）

一、入會申込者 大正十年十一月末、岡山縣下は無論、隣縣各市に宛て講習會の廣告を發送して、會員の募集に努力した結果、東は大阪、尼崎、西は廣島、吳遠くは鹿児島から申込者があつて、合計七十六名、その内、取消一名、缺席者十二名で參講者六十三名（内同好會員三十四名）あつて豫期以上の好成绩を得たのであります。

二、講習會の狀況

1、第一日（十二月二十六日）午前九時二十分、水野支部幹事開會の辭を述べ、直ちに山本講師演壇に起つて開講「宇宙の概観」及び「天球と諸運行」に就いて述べられ、正午から太陽の黒點を三吋望遠鏡二臺据ゑ付けて觀測したのに黒點を觀るのは初めての人が多くて感興を起さしたことの大きなものがあつた。午後六時から山本講師は星座に就いて實地の説明を試み、變光星、星團、星雲星に迄説き及んだので會員一般の喜び一方ならず、時に黃道光の偉觀にも接したのである。

2、第二日（二十七日）午前九時開會、山本講師は前日に引續き「天球と諸運行」及び「恒星界」に就いて講演、正午から會員一同記念撮影をした。夜分實地觀測をなす筈であつたけれど、生憎曇天の爲め取止めストープを取り圍んで銘々氣焰を揚げて居たのが火星に達し、來六月十日は「火星の衝」に相當するので同日午後八時から、第二回岡山講習會を開き火星専門の講演を山本理學士に御頼みして徹夜觀測、十一日午前八時から同十時迄で講習會を閉ぢ、午後一時三十分から天王星發見者ウヰリアム、ハーシェル百年祭記念講演會を催す事に決定して各々帰宅した。

3、第三日（二十八日）午前三時頭は曇つて居たが午前五時三十分になつて雲は西風に吹き拂はれ土、木、火の三大遊星其の他を觀測することが出來た上に、黃道光の實に鮮明なるものを、東天に見ることを得たのは幸福であつた。

午前九時から山本講師は前日に引續き「恒星界」を説き太陽系に迄及んだ。午後一時三十分から茶話會を開き會員の懇談をした、時に山本講師は「天文教育」に就いて有益なるスピーチを試み午後四時談笑裡に散會。更に午後五時から山本講師の慰勞晚餐會を催し和氣霽々の裡に午後八時解散した。

4、第四日（二十九日）午前九時開會、山本講師は「太陽系」の残り「天文發見械」に就いて豫定の講演を終了したので暫時休憩後、講習證書授與式を舉行し、水野支部幹事報告をなし、山本理學士は本部幹事として六十三名に證書を授與し、一場の希望及び所感を述べ、尼崎高等女學校木村孝造氏は講習員を代表して謝辭を陳じ、四日間の講習會は山本講師の熱心なる精神的講演と、講習會員の勤勉と相俟つて講習會を緊張せしめ、實地觀測、實物教示は有勝ちな机上の空論に終らしめず、感興をそゝり、記念撮影、茶話會、參考書陳列會等は會員をして親密を深からしめ、十數名の同好會員を新に加へ、岡山縣下は言ふ迄もなく、尼崎市、吳市、廣島市等から態々來會された方々にも「天文學の鍵」を與へたのは斯學普及、發展の爲め實に喜ばしき事であつた。

○支部幹事 新たに左の通り囀托

三浦義三氏 神戸支部

飯 義壽氏 同志社支部